

アーキテクト 「みえ」

36・37号

JAPAN
INSTITUTE OF
ARCHITECTS
2026



公益社団法人
日本建築家協会

特集

三重の「商店街」

日本建築家協会三重地域会
活動報告2024-2025年度



三重の建築散歩

志摩観光ホテル

村野藤吾がつくりだす重層するストーリー

(志摩市)

本館 概要	設計：村野・森建築事務所	施工：大林組	建築主：志摩観光ホテル
	構造：鉄筋コンクリート造 地上6階建	竣工：1969年	

志摩観光ホテルは、数々の小説の舞台となり、皇室の方々にも愛されてきた名門ホテルであると同時に、建築家・村野藤吾の設計思想が凝縮された代表作の一つでもある。この建築への理解を深め、散歩のヒントとなる「3つのストーリー」をここにまとめてみたい。

まずは、デザインの変遷と再生の歴史から。1951年に建設された木造の旧館「ザ・クラブ」は、高低差のある地形に対応するため1階部分をRC造とし、木造の2階部分は村野が戦時中に設計した鈴鹿海軍航空隊将校倶楽部の建物から柱や梁などを再利用した「再生の建築」である。一方1961年に建設された西館（現在は解体）、1969年に建設された本館「ザ・クラシック棟」は、周囲の地形や風景との調和を意識して配置され、棟屋を含めて水平線を強調するデザインが特徴的である。その端正な造形は、英虞湾の景観と見事に呼応している。さらに1983年に村野が90歳を超えてから増築された宴会場は曲線を多用した構成で、ここでは晩年の造形感覚が色濃く表れている。志摩観光ホテルは、一つのホテルに滞在しながら、建築家・村野藤吾のデザインの変遷と一貫した思想を読み取ることができる貴重な建築群なのである。

次に、志摩観光ホテルの価値を考える上で、本館が1980年代以降に解体の危機に直面しながらも、その歴史的価値や住民・宿泊客からの支持によって存続が選択された事実は忘れてはならない。志摩観光ホテルが解体されるという報に接し、慌てて見学に向かった記憶がよみがえる。しかし、この建築は壊されなかった。それはこの建築が、単なる機能体としてではなく、地域の風景・歴史・記憶を担う公共的存在としてまたは企業のブランディングのひとつとして評価されたからだ。2016年の伊勢志摩サミット開催に伴う直前の改修によって、本館の大階段などが撤去された点は惜しまれるが、時間をかけてこそ味わう事の出来る手摺の質感や壁面の表情が随所に残っており、激動の時間を耐え抜いてきた「建築の力」は健在である。

最後に村野藤吾と近鉄の関係を少しだけ。ホテルのテラスから海を眺めていると、この地がかつて「未整備の風景」であったことを忘れてしまいそうになる。しかし実際には、ここは近鉄の開発によって線路が整備され、終着駅にホテルを配置したことでできた景観でもある。近鉄百貨店や駅舎など他の施設にも携わっている村野は、鉄道を日常から切り離す「旅の装置」へと転換する理念を理解したうえで、その行き着く先に「静寂」という精神的価値を重ね合わせたのだろうか。

以上のような志摩観光ホテルの重層的なストーリーを踏まえて建築を体験することで、この建築の魅力はいっそう深く味わえるだろう。なお、最寄り駅である近鉄賢島駅も村野藤吾の設計であることは、意外と知られていない。ぜひあわせて見学してほしい。（森本 雅史）

参考資料：第14回村野藤吾建築設計展 図録集



表2	三重の建築散歩 志摩観光ホテル	
02	巻頭のことば 出口 基樹 久安 典之	
03	特集 三重の「商店街」	
04	四日市の商店街 ————— 久安 典之 四日市市	
06	津市大門商店街 ————— 出口 基樹 津市	
08	芭蕉街商店街 ————— 池澤 邦仁 伊賀市	
10	松阪駅前通り商店街 ————— 伊藤 達也 松阪市	
12	伊勢市の商店街 ————— 高橋 徹 伊勢市	
15	鳥羽市の商店街 ————— 高橋 徹 鳥羽市	
16	建築文化講演会 2025 ————— 西口 有紀 講師：高野洋平＋森田祥子 「環境・まちとの共存」	
17	会員研修会 ————— 滝井 利彰 「旧上野市庁舎改修工事・見学会報告」	
18	建築文化講演会 2026 ————— 服部 昌也 講師：青木 淳 「理想の美術館」	
19	会員研修会 ————— 相原 宏康 「旧御杖小学校 見学会」	
20	活動報告 2024～2025年度	
24	三重地域会・会員名簿／法人協力会員名簿	
表3	編集後記	

日本建築家協会 (JIA) 三重地域会 会長 **出口 基樹**

「アーキテクトみえ」36・37号の発刊を迎えることができ、大変喜ばしく思います。「継続は力なり」と言いますが、コツコツと積み重ねてきたこの会報は、JIA三重を象徴する事業になっています。本会の活動報告や特集で扱う三重の文化や伝統を記録として残すことは大変価値のあることですし、それと同じかそれ以上に大事なことは、我々会員が執筆・編集・発刊を通じ、見て、聞いて、調べて、感じて、考えて、表現する行為を継続して行うことにあると考えています。その行為の継続性こそが、本会の文化と伝統を、またその存在価値を形づくるものなのではないでしょうか。

さて、本号の特集は「三重の商店街」です。三重の各都市には商店街が存在し、大層な賑わいをみせていました。しかし時代とともにかつての賑わいは失われ、様々な商業的・社会的な問題を抱え、それぞれの都市における大きな課題となっています。一般的には大企業による大規模小売店舗やロードサイド店舗の進出・拡大が要因とされていますが、それだけではなく、国の方向性、外

国との関係、法の在り方、経済の行方、災害の発生、感染症のまん延、少子高齢化など、様々な原因が指摘されています。もちろん外的要因だけでなく、商店街自体や自治体、そして我々自身に起因する内的要因も存在します。そういう込み合った問題を抱えた商店街ですが、また同時に賑わいを取り戻す、または新しい賑わいを作り出す、様々な取り組みもなされています。本号では、そのような負の面、正の面に焦点をあてつつ、それぞれの地域で活動する会員が、それぞれの都市の商店街を取り上げ、建築家ならではの眼差しと切り口で、現在に至る経緯と現状、またその原因と課題を考察し、未来に向けてのコンセプトや取り組みを理解し表現する、そういった紙面にしたいと考えます。また、そのなかで我々建築家に何ができるのか、何をすべきなのか、職能としての関わり方についても考え、自他に問いかける場に昇華することができればと願います。そして読者の皆様におかれましては、この紙面に何かを感じ、ご自身の街の事を考えるきっかけにいただければ幸いです。

三重地域会 副会長 **久安 典之**

「時代の移り変わり」という言葉が脳裏をかすめます。そのスピードは、AI (Artificial Intelligence; 人工知能) の登場によって一気に加速し、社会全体がその変化に十分対応しきれないように感じます。遅かれ早かれ、JIA三重も、2年に一度発行されるこの「アーキテクトみえ」も、今回の特集である「三重の商店街」も、現状を的確に認識し、変化に柔軟に対応していく必要があると思います。

JIA三重は世代交代や人口減少に伴う会員数の減少などの影響を十分に考慮しなければなりません。「アーキテクトみえ」についても、紙媒体からデジタル媒体への移行は、人々の志向や物流を踏まえると避けて通れない課題です。そして「商店街」も、かつての複合的な機能から、より細分化し、その存在意義を再定義していく必要があります。これまでの歴史が証明してきたように、変化に柔軟に対応した者だけが生き残るのだと思います。

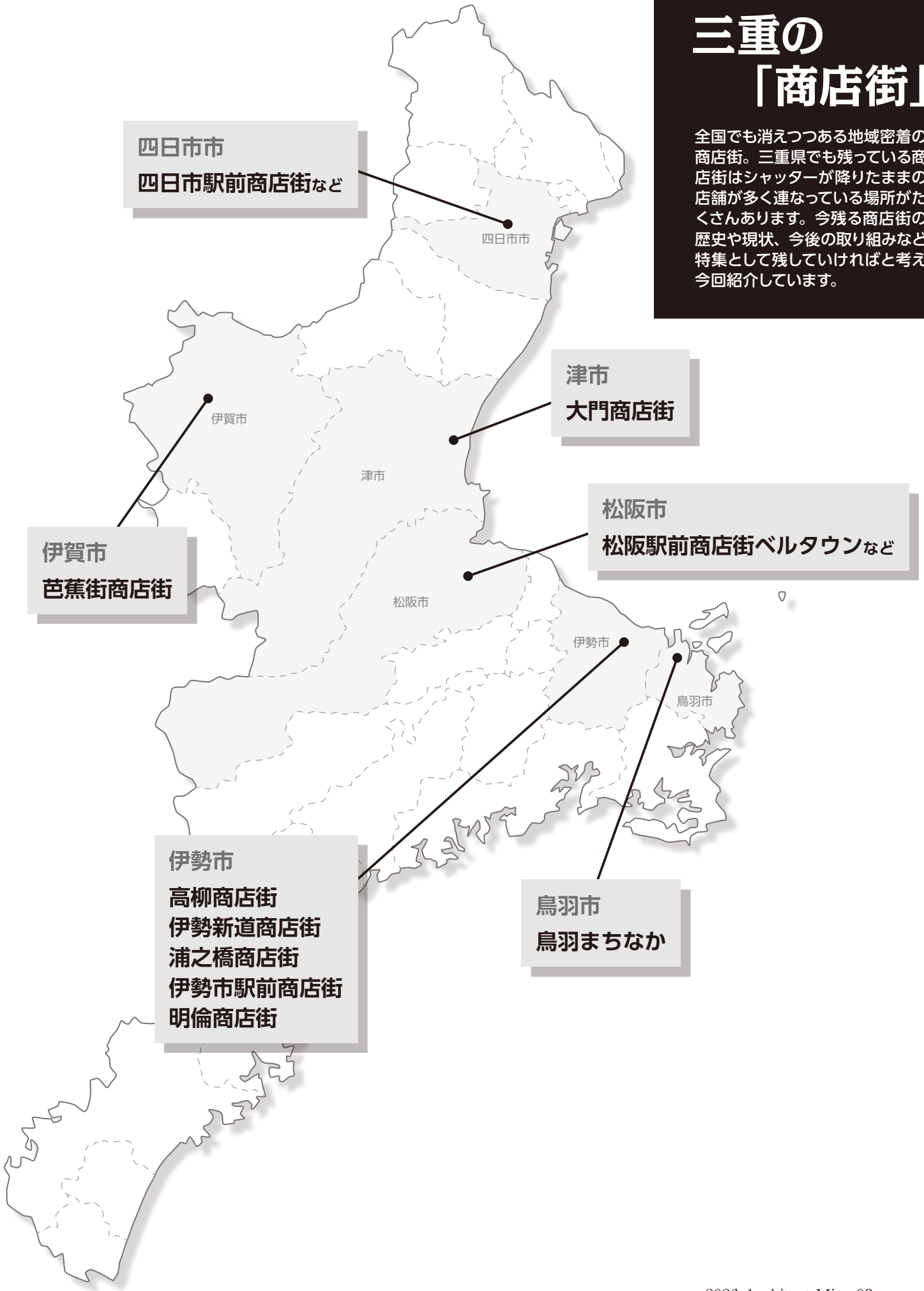
では、どのように変えていくべきなのでしょう。まずは現状を正しく認識し、自覚することが重要です。たとえば、このままの状態を続けて行く先に未来がないと考えればノスタルジーを断ち切ることができますが、そうでなければノスタルジーに引きずられて変化のスピードが遅くなり、場合によっては存続が危ぶまれることもあります。日常生活の中で「昭和は良かった」などと思う場面も多々ありますが、「時代は変わった」と明確に認識し、禅語の「随所作主立処皆真(ずいしょさしゅりっしょみなしん)」のように、常に主体性をもって取り組みれば、そこに成果が生まれるのではないのでしょうか。

また、様々な技術の進歩によって私たちの働き方や生活様式も大きく変わりつつあります。こうした時代の流れを前向きに受け止め、新たな価値を創造していくことも、今後は重要になってくるのではないかと思います。そしてその先に生まれてくる新たな繁栄や街の姿を皆様と共に考えていければと思います。

特集

三重の 「商店街」

全国でも消えつつある地域密着の商店街。三重県でも残っている商店街はシャッターが降りたままの店舗が多く連なっている場所がたくさんあります。今残る商店街の歴史や現状、今後の取り組みなど特集として残していければと考え今回紹介しています。



四日市市
四日市駅前商店街など

四日市市

津市
大門商店街

伊賀市

津市

松阪市
松阪駅前商店街ベルタウンなど

伊賀市
芭蕉街商店街

松阪市

伊勢市
高柳商店街
伊勢新道商店街
浦之橋商店街
伊勢市駅前商店街
明倫商店街

伊勢市

鳥羽市

鳥羽市
鳥羽まちなか



変わりゆく中央通り 01 (新たに完成した「よんまるテラス」から撮影)



変わりゆく中央通り 02 (近鉄百貨店のエレベーターから撮影)

四日市の商店街

久安 典之 (久安典之建築研究所)

所在地 四日市市

1. 当事者としての視点から

当事務所の開設から7年目の2009年に四日市の中心市街地にあるアーケード街に事務所を移転しました。以前から社会に開かれた設計事務所になりたいと考えていたところ、住宅を設計させて頂いた建築主から、商店街の中の諏訪公園に隣接する元食堂をカフェへとリノベーションする仕事を紹介されました。訪れると、アーケードの片側に20店舗ほどが3棟に分かれて連なる鉄筋コンクリート造2階建の長屋状の建物の一角。伊勢湾台風のあった昭和34年の完成で、外壁・界壁・梁は鉄筋コンクリート造となっており、他の木造部分は自由に手を加えられる、いわゆる「スケルトンインフィル」の構造。退居時はそのまま出て行けるルールで、次に入ったテナントは、そのまま使うのもガラッと作り変えるのも各自の判断。吹き抜けの有無や階段の位置など店舗毎に特徴があって面白い。同じ並びで空きテナントがあったので移転先として借りることに決め、カフェと同時進行で改修工事を行い、晴れて商店街内の事務所が完成しました。

それから十数年。事務所の面するアーケード街「三番街発展会」の会長、事務所裏の諏訪神社の活性化に取り組む「諏訪神社にここプロジェクト」の世話役、事務所周辺の「諏訪西商店街振興組合」の副理事長などの様々な立場の他、多くの人々との個人的なお付き合いを通して、それまで知らなかった商店街の歴史・組織・実情など様々なことが分かってきました。

2. 商店街の歴史

四日市の商店街は、江戸末期に東海道沿いの諏訪神社参道周辺に店舗が立ち並んだことが源流で、その後1890年(明治23年)に関西鉄道四日市駅(現在のJR四日市駅)の完成をきっかけに発展した周辺がつながり、第二次大戦末期の四日市空襲や幾度もの鉄道網の変遷を経て街は西へと延伸し、近鉄四日市駅周辺を中心とした広範囲へと発展しました。かつては戦後のバラックが立ち並ぶエリアや、現在のアーケード街の中心付近に「諏訪駅」があったようですが、現在の姿は1965年頃からのアーケード建設やカラー舗装の整備によるもので、その面影は見当たりません。往時は自転車に乗って通れなかったとも語られますが、全国各地にみられる郊外型の大型店舗の台頭とともに、人通りは徐々に少なくなっていったようです。

皮肉なことに、その郊外型大型店舗の筆頭ともいえる「イオン」は、四日市の発祥。「大黒柱に車をつけよ」の家訓のもと、江戸時代には東海道付近にあった「岡田屋呉服店」は、現在の中心市街地に移転して「オカダヤ」→「ジャスコ」と名を変え、2002年(平成14年)にはついに「ジャスコ四日市店」の閉店により中心市街地からは姿を消し、発祥の地である四日市市内でさえも郊外型店舗のみとなりました。まさに時代の変遷の象徴的な話です。



いまや街のフォトスポットとなったハートのイルミネーション
(企画・設計・施工)

まちなか文化祭での古本市
(実行委員長として企画・開催、中央の白い部分が弊社)

また、ユニクロの柳井正氏は、大学卒業後にジャスコ四日市店に赴任（一年足らずで帰郷して家業を承継）されたとのこと。いずれも世界に店舗展開する企業のゆかりの地が四日市ということですが、現在の商店街の実情と照らし合わせると喜んでいる場合ではありません。

3. 現在の商店街

現在の商店街は物販店が衰退して半数ほどが飲食店へと替わり、アーケード街は意外にも空き店舗はほとんどありませんが、営業時間が昼夜とで違うため、その実情を知らない人には寂しげに映るようです。また、アーケードは修繕やLED化により維持されていますが、老朽化や耐震強度不足は否めません。カラー舗装は現在行われている上水道等の更新工事により継ぎはぎとなっており、数年後の路面の補修までは見苦しさを強いられています。とはいえ、昼はそれなりの人通りもあり、夜はさらに賑やかになります。

近鉄四日市駅周辺とJR四日市駅を結ぶ中央通りでは、近鉄四日市駅周辺に分散するバス乗り場の駅東側への集約や高架歩道の整備を行う国の直轄事業としてのプロジェクト「バスタ四日市」の建設工事が進められています。2027年度の完成を目指して工事が進められており、昨年12月には円形デッキ（よんまるテラス）が供用開始されています。また、中央分離帯の北側車線を南側へ集約する市主導の「中央通り再編事業」も進められており、さらにはJR四日市駅前への大学誘致も検討されています。（いずれも個人的にはいろいろと思うところがありますが・・・）

そんなさなか、昨年9月12日には記録的な豪雨（123.5mm/h）により中心市街地一体が冠水しました。当事務所も床上浸水し、前のアーケード街は川のように became. 地下駐車場「くすの木パーキング」（1997年完成）は地下1・2階共に水没し、車274台が被害に遭いました。日に千台近くの利用があっただけに街への影響は大きく、昨年12月の運営会社の破産を受け、市

が第三セクターの所有部分を取得して公共事業として復旧する予定となっています。



冠水した弊社前のアーケード街

4. 今後の四日市への想い

これまで十数年、建築家として街と触れ合う中で、様々な想いが錯綜しています。商店街関係者の一員として、多くのイベントに関わったり、目の前の多くの課題に取り組んだりして、それなりに頑張ってきましたが、建築家としての考えを反映するまでには到底及ばず、もどかしさを感じていました。願わくは、こんな街にしたいという想いを多くの方と共有し、カタチにし、その上で多くの取組みをしていきたい。これまでの四日市市の中心市街地は鉄道網の変遷と共にほとんど自然発生的に形成されてきており、街の高度利用や都市機能の整備は十分とは言えず、以前から都市計画的な視点からの見直しの必要性を感じていましたが、先日の水害でその想いをより強くしました。地域全体から見た中心市街地の位置付け、水害対策をはじめとしたインフラ整備、アーケードなどの共同施設の老朽化対策、街の魅力を感じる場の形成、文化的な豊かさの醸成等、ソフトとハードの両面から、時には大所高所から、時には現場の目線から、様々に検討して再整備していく必要があります。そのために、まずは商店街・地域・行政、共に真剣な議論ができる場づくりから始めていきたいと思ひます。



旧伊勢街道より津観音を正面に見る

津観音仁王門より旧伊勢街道を見る

津市大門商店街

出口 基樹 (日新設計(株))

所在地 津市

大門商店街（正式には大門大通り商店街）は日本三観音の一つに数えられる津観音の門前町を起源として発展した商店街である。よってまずは津観音から始めようと思う。西暦709年、伊勢阿漕ヶ浦の漁夫の網にかかった聖観音立像（ご本尊）をまつり開山、正式名は恵日山（えにちさん）観音寺大宝院、真言宗醍醐派の寺院である。ご本尊以外にも国府阿弥陀如来（こうあみだによらい）が有名で、天照大神の本地仏（ほんじぶつ）とされており、伊勢神宮とセットでお参りすることが最上とされ「阿弥陀に詣らねば片参宮」と言われ、ご利益が半減するとされていた。かつての津観音は、境内に観音堂を中心として塔頭（たっちゅう）寺院7ヶ寺を構えた大寺院であつたらしい。昭和20年の戦火でその7ヶ寺を含む41棟の大伽藍が一夜にして全焼。現在の大宝院は7寺の本坊で歴代天皇の勅願寺でもあった。現在は本堂、五重塔、護摩堂、資料館、恵日堂（永代供養納骨堂）、仁王門の建物構成となっており、この仁王門の門前町であつたことから「大門」という地名になったと云われている。仁王門を出てまっすぐ南に歩を進めると50mほどで伊勢街道の交差点につながり、そこから西に100m、南に200mほど伊勢街道が伸びており、この3本の道沿いの商店群が「大門商店街」である。江戸時代には津城の城下町における大門町として神宮に向かう参宮客で賑わい、明治初頭には津の中心として安濃津県庁、津郵便局、三重県警察津出張所が相次いで設置され、1879（明治12年）には第百五国立銀行（現在の百五銀行）が開設、後に伊勢街道が国道1号線に指定されると、芝居小屋、映画館が多数できたが、1920年（大正9年）の新岩田橋架橋により国道でなくなったため、街は商店街に姿を変えたと云われている。その後も商業が活発であつたことから、津商工会議所も1916年（大正5年）から1945年（昭和20年）

までこの地に置かれた。1936年（昭和11年）には三重県初の大型百貨店である大門百貨店が開業した。地上5階建て・鉄筋コンクリート造、当時三重県で最も高い建築物で、県内初のエレベーターも設置されるなど繁栄を誇った。しかし1945年に複数回の津空襲を受け、大門の大部分が焼失した。それでも翌年には復興計画が立案され、繁華街として復活、1964年（昭和39年）には全蓋式のアーケードが完成、地域随一の繁華街・歓楽街として長らく賑わつたが、モータリゼーションの進展に伴う郊外型ショッピングセンターやロードサイド店舗の進出、1990年代初頭のバブル崩壊、最寄り駅不在の地理的要因に2002年（平成14年）の飲酒運転厳罰化等も重なり、徐々にではあるが衰退の一途をたどり、2008年（平成20年）のリーマンショックに端を発する不景気が追い打ちとなり、街の状況は深刻化し、2018年（平成30年）にはアーケードが撤去されるに至った。

むろん行政側としてもみすみす手をこまねいていたわけではなく、新しい時代を見据えた商業振興の施策を立て商店街をリードしたが、その間に津市の合併があり市域が拡大、旧津市の市街地より、新しく加わった旧町村の整備を優先せざるを得ない状況もあり、目立った成果をあげることはできなかった。時代の要請に応じた新しい商店街を再編するにも地域側にも様々な課題があり、土地・建物を巡る権利関係の複雑さ、店舗と住居が一体という建築構法の問題、かつての一等地という地主イメージによる家賃設定、不動産や金融資産の蓄積があり商業を生業とする必要性の欠如、もともと貴金属店や呉服店が多く飲食店や食品販売店が少なかったため転用に費用が掛かる等々があげられる。行政も商店街もなんとかしなければならぬという共通の認識は持ちながら、互いに疲弊していった。



往年の雰囲気を残す「オーデン大門ビル」

時は令和に移り、合併による整備も概ね目途がついたこともあり、2021年（令和3年）から、旧津市の市街地再編が再び動き出し、現在様々な取り組みがなされている。これまでは行政側で再編のプランを作成し、地域に提案する形が定番であったが、今回は官民連携でプランづくりに取り組んでいる。新しいまちづくりの協議・調整を行う「場」であるエリアプラットフォームを設立、未来ビジョンを策定し目標を立てたうえで、まずは先導的な取り組みから始めようとしている。設立メンバーは、まちづくり会社・自治会・商工団体・商店街・企業・市民・行政等で構成され、目標は5つ、1.人が集い、交流、活動できるまち・2.楽しく歩いて回遊できるまち・3.エリア価値の高いまち・4.魅力情報が発信されるまち・5.持続可能なまち、その目標を実現するため、実行チームが創設され活動している。チームは3つ、道路空間活用チーム・公園空間活用チーム・情報発信チーム。福山市や佐賀市に代表される先進的な成功例からみても、「歩いて楽しめるまち」「そこにしかない」「そこにしかない」を目指すには、道路と公園の空間活用は最も効果的かつ重要であることは自明であるし、活用が始まれば、いや

レトロなファサードの元床屋



始まる前からそれらの情報を発信する強度が必要である。もっとも先例の手法をなぞるだけでは、地域性に適合した持続可能な「まちづくり」を成功させることはできない。そこで、各チームは地域・利用者を対象にした社会実験を行い、「大門」らしい最適解を見つけ出そうとしている。特に自動車での移動が優先される地域であることから、その取扱いについては時間を使い慎重に検討を行っている。このように計画は進み、いよいよ商店街・自治会の同意を得る段階に入ろうとしているが、そこで前出の「地域側の課題」が再度表面化しようとする。しかし時代は流れ、世代が変わりまたは変わろうとしていることもあり、土地・建物の活用を求める潜在的な声は大きくなっている。そこで2022年（令和4年）行政が新しい仕組み「大門・丸之内土地・建物活用意向登録システム」を創設、民間事業者にはない行政ならではの信頼に基づくシステムであり、現在だけでなく将来に向けた所有者の意向・新規事業者の希望を把握し、その情報を安全に管理しながら所有者と事業者を結び付け、新たな土地・建物活用を目指すいわばマッチングシステムである。すぐには不動産取引につながらないが、中長期的な視点で取引につなげることが可能になるため、土地の集約や再編にまで踏み込むことができ、活用しやすい一団の土地として事業利用する面的なコーディネートが可能になると期待されている。エリアプラットフォームと活用意向登録システム、この二つを切り札に「大門商店街」がこれからどのような姿に変化していくのか。非常に楽しみであるとともに、計画の核となる「道路空間活用」「公園空間活用」「情報発信」いずれをとっても、特に「空間」がつく二つについては、我々建築家の視点・知見・技能が役立つ分野であるから、自らも地域発展のため貢献する意思と姿勢を示し、計画に参画することを改めて考えるきっかけをもらった。

中心部の大規模な複合店舗





お気に入りの商店街の町並み

芭蕉街商店街

池澤 邦仁 (池澤アソシエイツ)

所在地 伊賀市

都会からUターンして建築士事務所を開業し始めた頃、「地元」に無知であることに気付く。事務所は山村の自宅に設けたが、町のことは分からなかった。町に親戚がなく、町は中学、高校が市街地から自宅側の郊外にあったことから通学路から外れていたし町の級友は皆、都会に出ていた。建築でいえば農家の様子は分かるが町家は全く分からない状態であった。そこで、町を知ろうと豊橋技術科学大学の瀬口研究室著「伊賀上野の都市景観」(1987)などをたよりに町歩きしはじめた。が、個々におもむきのある町家や洋館が散在するものの良好な町並みの体を成す場所にはなかなか行き当らなかった。

そうこうする内に江戸期の藤堂藩の中心地津から伊賀上野への伊賀街道と東海道関宿と奈良を結ぶ大和街道が合流する「芭蕉街商店街」辺りはお気に入りの町並みとなった。伊賀市上野農人町から寺町、新町に至る町並みで、有名な伊賀牛お食事処に面する建具店や組紐店が落ち着いた町並み景観を成している。他に少し離れて酒間屋や和菓子舗、ジャズバーなどが息づく。今では町家ホテルが加わり、少し以前は薬局や銀行、イタリアンレストランなどもあった。

お気に入りの商店街の町並みの画像の向こうに見える突き当りが、こちらの伊賀街道と大和街道との合流点である。伊賀上野の町は城下町として語られることは多いが、城下町を宿場町が貫通する町並みを成し、この辺りは宿場町の様相である。大和街道を更に奈良方面に進むと城下町と宿場町との二重性をもつ本町通りがある。

花を添えた匾





大和街道と伊賀街道の合流点



通りの街路灯支柱

旧街道の名を記す行燈風足元灯

少し離れた松尾芭蕉生家の前面道路が大和街道であった時期があり、直近の商店街に繋がる道の縁から商店街の名に冠せられたのであろうか。ちなみに、当地では「松尾芭蕉」と呼び捨てにすることは響感を買いかねない。「芭蕉さん」とか「芭蕉翁」と親しみや畏敬の念を込めながらお呼びすることをお勧めする。

伊賀市景観計画に基づく「景観影響行為ガイドライン(平成28年)」では、「伊賀街道沿線地区」や「大和街道沿線地区」などに建つ好ましい町家の姿を示している。要約すると、色彩は、屋根は黒又は灰色、外壁は無彩色(白、灰色、黒)又は茶色系の落ち着いた色を基調とするように努めること。屋根形式は、勾配屋根とし、家並み景観の再生に努めること。車庫や駐車場、垣柵等は町並みに調和した門塀を設けるか、生垣等植栽による修景を行い町並みの連続性を保つように努めること、とある。

本稿をまとめるにあたって辺りをもう一度町歩きし

てみた。景観影響行為ガイドラインの効果か、ストリートファニチャーとして「ばったり床几」が加わり、屋根上のペンキ塗りトタン看板が影をひそめ、空調屋外機を木製格子の囲いで修景されたりしている。一般的に商店街にはぎやかな雰囲気を演出して多彩な目を引く幡や看板を設ける傾向がある。現在、ここではそうした設えは控えられ、町並みに花を添えることが意識されている。修景物として花器に花を挿したものや箕、甕などに花を添えた工夫が加わっている。どこかで見た気もするが町並みの静謐さを保ちつつ相反するにぎわいと均衡を意識した一つの方策ととれる。ガイドラインには規制と共にこうした工夫を更に多く例示しながら良好な町並み形成を支援することが求められているのかも知れない。

参考資料：読賣新聞 1998年8月7日伊賀版連載記事
『街並み 伊賀に行く「芭蕉街」』 拙稿

跳ね上げたばったり床几と格子で囲った空調屋外機



ばったり床几と箕





三交跡を望む

松阪駅前通り商店街

伊藤 達也 (一級建築士事務所設計工房 NEXT)

所在地 松阪市

松阪市は、戦国時代の蒲生氏郷が開祖で、「松坂」と名付けた。1556年に生まれ40歳で没するまでの戦国武将のまれな人生は、織田信長に気に入られ、娘婿となり、激動の時代を生きた秀でた武将の一人。29歳で、松ヶ島城に入城、松阪に居た5年のうち、ほんの少しの年数で城下町を整備し、小田原城攻めのと、福島会津42万石の大名となった(レオンというキリシタンネームの持ち主)。茶道を極め、千利休の弟子として利休七哲の一人。毎年、11月3日には、蒲生氏郷公を称えた氏郷まつりが開催されている。2026年で65回目を迎える。

江戸時代に、松坂商人としての地位を築き三井家の家祖となった三井高利は、4男4女の8番目の末っ子として1622年に生まれた。14歳で故郷を離れ江戸に上り、18歳で江戸店を任せられ商才を発揮した。母の面倒を見るため28歳で松阪に戻り、妻をめとると、10男5女をもうけた。金融業と呉服屋で巨額の資産を作り52歳で江戸に三井越後屋呉服店を開業し、現金掛け値なしで、店先売りで、繁盛し「越後屋千両と呼ばれ、1日千両売り上げ、三井両替店は、幕府の為替御用方の地位を確立し、江戸期の豪商、後の三井財閥となった。2022年は、

三井高利生誕400年。2023年は、三井越後屋創業350年を迎えた。

古事記や日本書紀を翻訳し、駅鈴と山桜をこよなく愛した国学者の本居宣長は1730年に、木綿仲買商の小津家の次男として生まれた。15歳で元服し、江戸の叔父の店に入るも、商売に関心は無く、1年で江戸を後にした。18歳で、伊勢山田の紙商兼御師、今井田家の養子になるも2年後に離縁となり、松阪に戻って和歌を詠み始めた。その後、兄が亡くなり、小津家を継いだ。江戸の店を整理してしまった。そこから、医師を志し京都へ遊学し、25歳で医者として歩み始めた。30歳で結婚し、僅か3か月のスピード離婚の後、2年後に再婚した。その後、松阪を訪れた賀茂真淵に、古事記の注釈について、指導を仰いだ「松坂の一夜」が、きっかけとなり、弟子入り入門し、文通による指導を受けた。

38歳で、著作を初刊行し、50歳を過ぎるころから、門人は増え続け68歳で「古事記伝」を、34年目にして完成させた。親の期待を裏切りながらの人生にも感じるが、医者と国学者の二刀流や、バツイチのスピード離婚等は、現代人ばく感じるのである。松坂城址に、移転された鈴屋、旧本

居宣長記念館、現在の本居宣長記念館へと、その功績や遺品は、鈴屋遺蹟保存会によって、しっかりと守られている。保存会の評議員として、郷土の偉人の本居宣長の歴史が学べる位置にいる事が出来るのは、所属する団体から頂戴したご褒美だと感じています。松阪の三英傑の歴史は、一夜漬けでは語れない。

豪商の歴史と文化の街の、商店街の事になると、子どもの頃見た景観や体験の思い出が美しい夢のような出来事として甦るはずであるが、この仕事をしていると、何処か現実的に色あせてしまって甦ってしまう昭和時代である。JR松阪駅のロータリーは、駅がゴール地点、スタート地点になるよう、商店街の中心を抜けて、駅鈴のモニュメント。あれ？噴水だった記憶がある。駅ビル＝ショッピングセンターで、三交百貨店が存在し、屋上には、遊園地があったような記憶も残っています。ダイカイデパートの最上階は、円形で回転レストランがあったが、回っている時を知らない世代のはずである。

今は、三交百貨店は駐車場になり、ダイカイデパート周辺は、ホテルが建っている。ダイカイデパートの末娘さんは、一級建築士で、同じ釜の飯を食った同僚であった為、最上階の回転レストランの話が何度も出ていたのかもしれない。そんな、昭和の商業施設で今も残っているのが、松阪駅前商店街のベルタウンである。昭和55年の竣工。意外と新しい。一瞬、シャッターが閉まりきっている為、その景観は、まさしく中心市街地の廃墟ビルにも見えてしまう。「昭和レトロ」「渋ビル」「哀愁が漂う」「ノスタルジック」。SNSや動画で配信されるネタになっている。よく見ると、外壁は、何とか保たれタイルも貼られている。しっかり造られている。子供の頃、「まつさか」と言わず、「まつあか」と言っていた記憶のままである。周辺には、おいしい食堂があった。スポーツ店もあった。映画館もあったし、レコード店～CDショップもあった。流行りのお店が軒を連ね学生達で賑わっていた。3階建ての一部住居になっているショッピングモールは、今の時代のアウトレットモールの小型モデルのようで、渡り廊下が懐かしい。この建物の設計に携わられた大先輩達は、今も現役で居られるのか？「どういった点を苦勞されたのか？」聞いてみたいと、素直に感じてしまうのである。当時に比べ、飲食店、居酒屋が数件軒を連ね、特に、年末年始、春先の歓送迎会シーズンの週末は、サラリーマン達で溢れている。一時その瞬間、往時の賑やかな駅前商店街が甦る。深夜12時頃になっても、満席の居酒屋もあり、駅前通りの町のポテンシャルの高さに、驚かされました。29歳で、松阪市内の設計事務所に勤めた頃は、既に終焉を迎えていたのかもしれないが、もう少し先に、調べてみたいし、何とか残して欲しいと秘かに思う。他にもあるが、自己満足の一夜漬けでは語れない。



伊勢市の商店街

高橋 徹 (有)高橋徹都市建築設計工房

所在地 伊勢市

伊勢市には商店街振興組合として組織されている商店街が伊勢市駅前商店街(振)伊勢銀座新道商店街(振)伊勢高柳商店街(振)浦之橋商店街(振)の4カ所と伊勢明倫商店街(協)、外宮参道発展会(任意団体)が伊勢神宮の外宮前山田地区にある。

伊勢の都市構造は中世からの巡礼都市としての自然発生的な都市構造を残し、戦災により市街地のほとんどが被災、戦後の区画整理により変貌したが、外宮の門前町を中核とした基本的な構成は変わらずに発展してきた。

宮川の渡しから筋向橋を経て外宮へ、また河崎世古から川湊河崎と山田を結ぶ道路があり、山田の商業活動の中心は勢田川水運と結びついた問屋街河崎と筋向橋から八日市場を経て外宮前に至る参宮街道沿いの小売商業地であった。

中でも高柳商店街は戦前から商業組合として県内でも最も早く組織化されている。夏の風物詩となっている夜店(100回を超える)、年末年始の大売り出しなど販売促進活動、また共同パラペットにより各店の軒先の統一を行い、昭和初期には伊勢第一の小売中心商店街化していた。

当時の伊勢市の街内構成は歓楽的な性格の新道通りは飲食店、遊郭などが半分ほどを占め、映画館、射的場などもあり古市と替わって伊勢第一の盛り場となっていた。高柳通りは呉服、洋服、洋品などの店舗が30%近くあり買回的色彩の濃い商店街であった。

市街地が焼け野原になった戦後、戦災復興事業で敷設された国道23号(現県道37号線)により商店街は分断され、新道通りがカフェ、料理店などを含みながら小売商店街として復活し、高柳通りを上回り、約600メートルにわたる中核の商店街となった。

伊勢市は多くの参宮客を迎えてきた町としてまた地方の中核都市としての役割を担い、高度成長期には商店街はそれぞれ大いに栄えた。しかし、伊勢市駅前の百貨店の閉店撤退、さらに全国的な動きとして郊外型の大型店の出店などにより中心市街地の空洞化が加速し、商店街はかつての賑わいを失い、空き店舗が増加し、閑散とした状況になった。各商店街組合では商工会議所の空き店舗対策等の支援を受けながら商店街復活の様々な対策に取り組まれている。

高柳商店街

老舗商店街の持続的な取り組みが魅力

高柳商店街の概要は東西方向に約400メートル(アーケードあり)で道幅も広く西の端には今社神社がある。また歴史的には商店街としての組織化(商業組合)は、三重県で最も早い1936年(昭和11年)。前述のように伊勢の老舗の商店街であり高柳と言えば「高柳の夜店」と誰もが思い浮かべる場所である。毎年初夏の6月1日から約1か月間1の位に1,6,3,8の付く日と毎土曜日に開催されアーケード内に屋台が並び各店も売出を行い、また様々な催しで夏の風物詩として賑わい、今年(令和7年)で106回を数え、周辺町村デー等広がりのあるイベントになっている。

また「ユニバーサルデザインのまちづくり宣言」を行い、誰もが町の中を自由に動き、社会活動できるように“バリアフリーやユニバーサルデザインの視点”も加えて商店街全体のにぎわい作りに取り組み、平成21年には、中小企業庁「新・がんばる商店街77選」にも選ばれている。

商店街に衝撃が走った2018年1月の火災により被災したエリアの復興に向けて高柳公園との一体的な活用に向けて協議を続けている。秋10月には食フェス「食の祭典いただきフェス」の会場、神宮神嘗祭に合わせて行われる初穂曳、伊勢祭りの出発地にもなっている。日常はシャッター商店街化していて淋しい状況であるが、ワインバーの開店や空き店舗にライブハウス、パーソナルトレーニングジムが出店するなどの新たな動きがある。

高柳商店街の夜店





新道商店街

伊勢新道商店街

清川の水辺再生が期待される中心市街地

伊勢新道商店街（通称しんみち商店街）は、伊勢市の中心市街地である山田の中央部、伊勢市駅から500m程西にあり、今は暗渠化され駐車場になっている清川沿い県道37号線（旧国道23号線）の北に位置している。江戸時代に整備された新道通に沿って形成され、伊勢参宮街道沿いの歓楽街を後ろに控えているため、歓楽街相手の呉服や化粧品を扱う店が多く、明治以降に順次拡大した。戦後、新道通は一早く商店街として再生し、伊勢市内外からの買い物客は伊勢市駅からの徒歩圏内に集約され、商店街はアーケードや駐車場の整備、カラー舗装など環境整備を進め、伊勢市で一番の商店街となった。

特に神宮神嘗祭を祝う伊勢大祭時は中心会場として近在から多くの人で大いに賑わった。しかし時代が移り、駅前への大型店出店と撤退、商業地のロードサイト化などにより中心市街地の空洞化は避けられず、淋しい状況になっている。

芭蕉ゆかりの御師島崎又玄邸が近在にあったことから平成2年に松尾芭蕉の句碑を商店街の入り口に移転、それを記念して、芭蕉が伊勢に因んで詠んだ22句のプレートを商店街の中に設置した。他にも伊勢の夜祭の開催、映画のロケ地などにもなっている。2025年には下水道工事に伴いアーケード内道路の舗装改修工事を完了、今も伊勢の商店街の核であり600メートルのアーケード長さを持つ新道再生が伊勢の中心市街地活性化の肝であることには変わらない。

浦之橋商店街

車が横付けできることを強みとする商店街

浦之橋商店街は宮川の渡しから伊勢のまちに入り、神城との結界と言われる清川に掛かる筋向橋のたもとから外宮の方向へ延びる東西約290メートルの商店街である。

かつて筋向橋から外宮までの古くから参宮街道沿いには市場が形成され、参宮街道が発達すると共に市場も繁盛していった。昔、江戸から伊勢までの距離を江戸の日本橋からこの筋向橋までをもとに算出したといわれている。橋のたもとに道路原票が今も残っている。

また商店街の西側道路は、「河崎世古」と呼ばれ、新道から河崎に通じる道があり、この辺りは近在の地域からの買い廻り商店街として発達してきた。

2017年、商店街の強い働きかけによりJT跡地に「伊勢メディアケアセンターひかりの橋」がオープン。隣接する「子育て支援センターきらら館」と、ひかりの橋を利用する高齢者や地域の方々が集い、三世代交流ができるスペースが設けられ、交流広場として、祭やイベントなどが開催できるようになっている。活性化の取組として浦之橋商店街の店舗や、地域外の出店者が集まる【軽トラ市】を通りを歩行者天国にして開催してきた。（2025年6月終了）2024年6月に商店街と共に歩んできた隣接する病院が移転した跡に地元スーパーが出店し浦之橋商店街との連携した商業エリアを構成している。

浦之橋商店街_軽トラ市



伊勢市駅前商店街

駅前市街地再開発ビルと共生しウォークアブルシティを推進

伊勢市駅（JR側）から徒歩2分の場所にある商店街。伊勢神宮外宮へは徒歩6分ほどで行くことができる。昭和25年頃に今の商店街の原形ができ、昭和31年に度会橋から外宮へ至る道路ができたことで銀座新道商店街の一部と昭和通り商店街の一部がそれぞれ分断整理され、昭和通り商店街と中央通り商店街と西町商店街の三つの商店街に分かれて商店街活動が行われてきた。昭和54年に三重交通が、三交百貨店（ジョイシティー）を開店、大いに賑わった。平成の初めに伊勢市駅前商店街振興組合を立ち上げた。バブル崩壊や駅前にあったジャスコの移転により、ジョイシティーの集客が衰え、平成13年に閉鎖され、駅前の空洞化が加速した。

2013年の遷宮を機に伊勢市駅前の再開発が行われジャスコ跡にホテルが開業、外宮参道は石畳整備とともに新たな店舗が出店し、多くの参拝客で賑わいを見せている。

当地区も伊勢市駅前市街地再開発地区として2016年にジョイシティの三交百貨店部分はホテルになり、2021年、一部市の福祉部門が入る複合ビルに建て替わり、2025年には商店街組合の前理事長が長く尽力した通称C地区に店舗付きマンションが建設されている。

商店街組合も若返り、次第に新規出店が増え、若い方も訪れるようになり、まちが明るくなってきた。2021年に通りの名称を『これは伊勢モール』から『月ノ宮通り』へと刷新し、道路や植栽の整備も行われた。更に市によるウォーカブル推進事業の一環として当商店街を対象に様々な取り組みが社会実験的に行われた。北御門通、月夜宮へのアプローチを経て外宮前山田地区への、また伊勢新道商店街、高柳商店街、浦之橋商店街へ誘うウォーカブルな商店街ネットワークの駅側の入り口としての役割を持っている。

伊勢市駅前商店街月ノ宮ストリートパーク



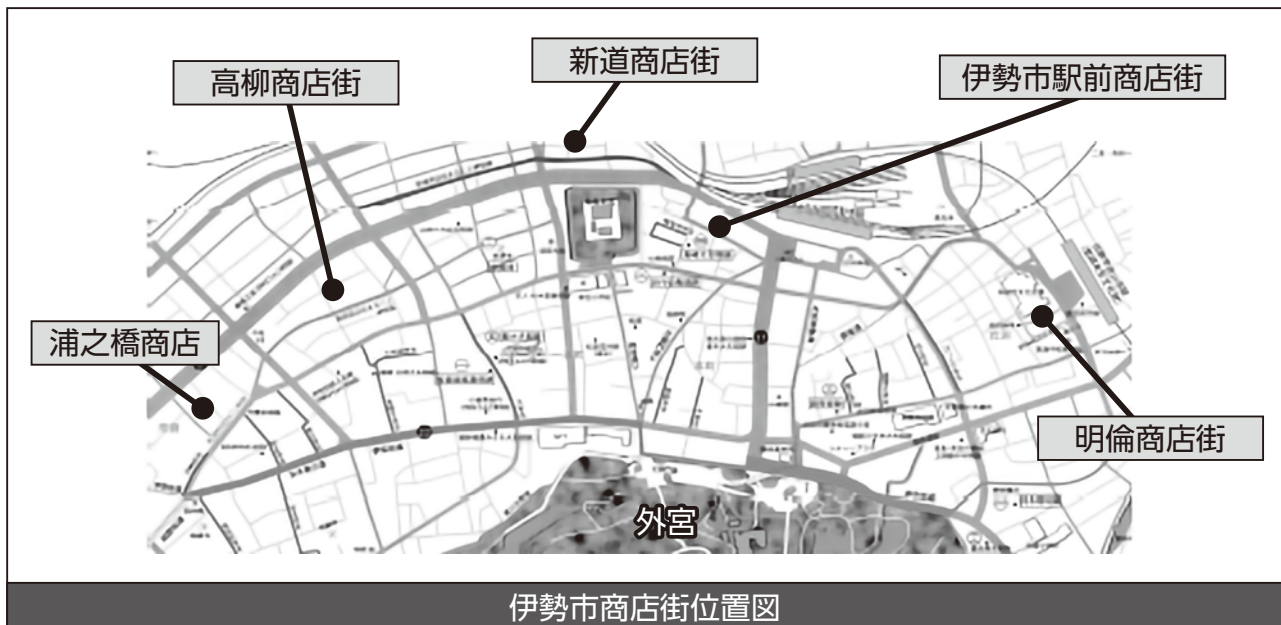
明倫商店街

明倫商店街

昭和レトロな雰囲気が魅力(昭和の生きた商店街ミュージアム)

明倫商店街は登録有形文化財の宇治山田駅(昭和6年)前、みのなかまつばら箕曲中松原神社と伊勢市観光文化会館に隣接してはある。歴史的には戦後の市民市場から始まり、昭和21年頃に神都公会堂(現在の伊勢観光文化会館)周辺に商店街が形成されはじめ、昭和22年6月に明倫商店街協同組合として法人化され現在に至る。

かつては駅前ということで戦後の生活物資購入の場として栄え、昭和30~50年頃になると、人がすれ違えないほど賑わっていた。しかし各商店街同様、時代に取り残されるようにその魅力を失い、寂しい状況となった。1980年代後半、駅前にあることで観光文化会館の建て替えを含む再開発計画が進められたが頓挫した。成立時の経過から権利関係の複雑さもあり、大きな改変をされることなく時代が経過し、まさに昭和のレトロ感が郷愁を誘う空間となり、商店街では空間の魅力を活かそうと平成18年には、愛称を「めいりん村」として、村の駅を開設し、特にメジャーな話題である澤村榮治生誕の町として、ブロンズ像を建立、昭和の商店街博物館的な雰囲気を持つ商店街として昭和をキーワードに活性化に取り組んでいる。



伊勢市商店街位置図



鳥羽大庄屋かどや（旧広野家住宅）

鳥羽市の商店街

高橋 徹（有）高橋徹都市建築設計工房

所在地 鳥羽市

鳥羽市なかまち

町の記憶を掘起し再生に走る 昭和の鳥羽の台所

鳥羽市には地域住民を商圏とする商店街は鳥羽3丁目～4丁目界隈にあり、江戸時代から明治時代には商店が連なり鳥羽の商業の中心地として栄え、また神宮外宮の末社である赤崎神社の参道沿いでもあり、昭和の良き時代には鳥羽の台所と呼ばれて賑わっていた。

高度成長時代には観光客の増加で町なかは大いに賑わったが、多くの旅館ホテルが海辺に立ち並ぶようになり、町なかへの人の流れが減少し、また大型商業施設が作られると中心市街地は空洞化した。それでも多くの参拝者が浴衣で参拝することから「ゆかた祭り」の愛称で親しまれている赤崎神社の例祭日（6月22日）にはたくさんの露店が並び賑わいを見せている。いま鳥羽3丁目～4丁目界隈、通称「鳥羽なかまち」は中心市街地で注目されている。

鳥羽市を代表する旧家「鳥羽大庄屋かどや」（旧広野家住宅、登録有形文化財）が市に寄贈され、交流施設として保存再生されることを契機に地元住民によりかどや保存会が2013年に設立され、同時に庶民の台所である「鳥羽なかまち」に賑わいを取り戻そうと、Uターンしてきた二人の女性の熱い思いから「鳥羽なかまち会」が発足、商店街再生に動き出した。商店の人たちの顔が見える地域でありたいというメッセージを込めたマップを発行し、地域の人たちとありたい町の姿の共有化を図った。

なかまちは「かどや」を拠点に活動を進め、4つの町内会を横断し一緒にしたなかまちの活動によりエリアの人々の交流が生まれ、まちづくりへの一体感が形成され、かつてのつながりが復活し「店主の顔が見られる笑顔溢れる楽しい町」に一歩ずつ進んでいる。

合同会社 NAKAMACHI 設立

活動を進めて行く中で空家の活用が課題とし浮かび上がってきた。2016年クリーニング店が空き店舗となり、なかまち会に相談が持ち込まれ、会で何とかやってみよう、なかまち会有志で合同会社 NAKAMACHI を設立、リノベーションに取り組んだのが空き家活用の最初で以後、多くの空き家活用に取り組んでいる。

一方ハードな取り組みと共に商品開発や「なかまちマーケット」の開催などにぎわい創出の取り組みも行っている。

昭和の鳥羽の台所の復活を掲げ女性たちが中心になり、仲間を増やし、地道に、しなやかに、楽しく、確実に一歩ずつ進め、その成果が町なかに見て取ることができるようになっている。地域の記憶を今に伝える歴史的建造物の保存再生が契機となって地域住民が町を見直し誇りを回復し、新たなまちづくりに取り組む好事例である。

鳥羽なかまちゆかた祭り



環境・まちとの共存 — 重なり合い生まれる豊かな建築 —

●開催日:2025年1月18日(土) ●講師:高野洋平氏+森田祥子氏



森田氏(左)・高野氏(右)



1月に行われたMARU。Architecture 高野氏、森田氏による講演会に参加させていただきました。

ご夫婦で登壇されるということで、冒頭ふたりで会話しながら進めていきたいとおっしゃられていて、どのような講演になるのか楽しみにしつつ“重なり合う建築”というテーマについてどういった意味があるのかわからないまま講演がはじまりました。

現在進行中のもも含め、いくつかの作品について重ねてきたプロセスや想いなどを聞かせていただきました。その中で共通して感じたことは、まちと建物との共存についてとても大切に考えられているということです。

講演のなかでの「地球環境があり、街並みがあり、庭があり建物がある。」「新築であってもそれはある種のリノベーションである。」という言葉が印象深く残っています。新築の建物であっても、すでに存在するまちという環境に対して手を加えるという意味ではリノベーションと同じで、建築単体の

リノベーションが既存のものを活かして新たに作り上げるように、まちの環境と共存し活かしながら新しい建物を作り出していくことでまちの歴史を築いていくという視点に気づかされました。

また、松原市民松原図書館の設計についての話も印象的でした。敷地は大阪府の松原市で、ため池や古墳が点在する住宅地の中にあります。当初はため池を埋め立てる形で計画がされていましたが最終的にため池の中に建てるという方向に転換され、その過程でのラフスケッチが紹介されました。このスケッチを見たとき、単なる建物のデザインとしてではなくまちとの関係性を考えるためのスケッチであること、まず考察されていることがまちとの関係性であり重視されていることなのだと実感させられました。実際に図書館を訪れると、その外観は存在感がありながらも周囲の街並みに自然に溶け込んでいる印象を受けました。中に入るとため池が見える大きな窓があり、池に反射した光が内部に入り込む様子やため池が見え

る景色に心地よさを感じました。講演の中での「まちとの関係性からできてくる建築など様々なものが重なり豊かになる。」という言葉のとおり、ため池に映る太陽の光や暖かさや景色など、建物とまちとの関係性から豊かさが生まれる“重なりあう建築”であることを体感しました。

この講演を通して、改めて「建物はまちの中に建つ」という当たり前のようなことをもっと大事に考えないといけないのではないかと感じ、建てるだけでなく使い続けられていく建物になっていくこと、自然やまちとの共存を意識しそれが重なり合うことでより豊かな空間が生まれ、長く愛され続ける建物になっていくのだと感じました。今回改めて気づかされ感じたこと、今後自分の手がける作品において大切にしていきたいと思います。



西口 有紀(JIA三重)
arbre 建築設計室



松原市民松原図書館 (外観)



松原市民松原図書館 (内観)

旧上野市庁舎改修工事・見学会報告

●開催日:2025年3月18日(火)



高天井の一般開架スペース



一般開架閲覧室の床改修



トップライト改修



ホテル客室

【工事概要】

敷地面積	12,120.38 m ²
建築面積	2,877.14 m ²
延床面積	6,070.95 m ²
構造	RC造
階数	地下1階 / 地上2階
建築主	株式会社伊賀市にぎわいパートナーズ
設計・監理	有限会社マル・アーキテクチャー 一級建築士事務所
工事施工者	旧上野市庁舎特定建設工事共同企業体 船谷建設(株)・(株)伊藤工務店 上野ハウス(株)

去る3月18日、JIA三重地域会主催の「旧上野市庁舎」見学会が催された。JIAのメンバーの他総勢32名の参加があり、設計者のマル・アーキテクチャーの高野洋平さんと森田祥子さんの案内で工事中の内部見学をすることができた。参加者の中には坂倉建築研究所のOBの方も数名いて、とりわけこの建築の工事監理を担当された方ははるばる奈良から来られて感慨深げに見入っておられた。令和4年(2022)の暮れに着手された工事は外装の改修が終了し、足場やシートは取り外されて現在内部の改装工事の最中であった。

図書館とホテルの複合施設への改修工事は少々遅れながらも、ホテルは本年7月、図書館は来年4月のオープン予定である。実はこの見学会に先立つ1月前、私は地元朝日新聞の取材を受けてこんなことを話していた。「ホテルは水回りが多くなるから、どう改変されているのか。ホテルと図書館で利用客の動線がどうなるのか。どのように空間的にまとめられ、解決されているのか、期待半分心配半分」「利用して文化財の価値は上る。いろいろな人が出入りし、積極的に利用してもらおうことが大切だ」と。

この敷地は北から南へ緩やかな下り勾配になっていて、設計者の坂倉準三氏はこの傾斜を巧みに利用し半地下の部分、高天井の吹き抜け部分、半階上るスキップ部分と巧みに空間の分節を図り、さらに玄関吹抜けを介して中庭のある2階へと動線を導いている。

改修工事では、半地下のフロアには図書館の児童開架、閉架書庫、貴重書庫の他事務室などの管理部門の諸室が、1階東側のエントランスからは図書館の受付、南側の吹抜け部分でメインとなる一般開架の空間へ、さらにスキップ部分の一般開架スペースと続く。一方北側のエントランスからはホテルのレセプションとカフェや観光物産スペースが配置され先の一般開架スペースを巡る。新設のエレベータで上がる2階は中庭の周りを取り巻くように計19室のツインルームとシングルルームの宿泊室が配置され、外窓には内障子が嵌められる。中央のかつての議場は高天井のまま学習室や集会室として利用できるようになっている。外廻りや中庭を囲むスチール製の窓は塗装修理され二箇所あるトップライトも改修されている。心配事ではあったが、屋上のかつて

の煙突は根巻補強され、消防署の名残のホース掛も存置されていた。他に図書館の開架スペースは二重床とし、新しい取り組みとして輻射熱を利用した空調システムが導入され、北と南西角に新たに2階に通じる鉄骨階段が設置されている。内部見学を終えて、最後は外でそれぞれの感想を述べ合い2時間近くの見学はあっという間に過ぎた。



後日談ではあるがたまたまの散歩中、これは何と?の風景を目にした。屋上に高架水槽や大きな設備装置は取り付けられているではないか。遠景はもとより近景からも良く見えてしまう。まだ工事中ではあるが、さて...どうなるのか?



滝井 利彰 (JIA三重)
一級建築士事務所 タック設計室

『理想の美術館』講師：青木 淳

●開催日：2026年1月24日(土) 14:00~16:00 ●会場：三重県立美術館 講堂 ●参加者：112名

1月24日、毎年三重地域会で開催している一般の方への建築家講演会で第38回となります。講師は青木淳さん。大御所的存在でなかなか講演していただけないと思っていたのですが、お引き受けいただき地域会待望の講演会でした。

場所は三重県立美術館の講堂にて開催しました。演題の「理想の美術館」に相応しい会場となりました。聴講者は112名。大半は三重県内からの来場ですが、愛知からも多数、岐阜・奈良・大阪からも来られていました。

講演の最初に今回は美術館についてテーマにしているが、自分の関わる建築全般について通じる考えであると説明されました。そして本論に。例年の講演では自作紹介が主ですが、美術館の歴史を4つの世代に分類してそれぞれの在り方の説明から始まりました。

第1世代として欧州での絵画を部屋の壁いっぱいには掛けた部屋が美術館の始まりです。パリの大部屋の壁を埋め尽くす写真を紹介いただきました。市民のための美術鑑賞の始まり。

第2世代は作品の貸し借りにも対応した美術品単体を見るためのホワイト・キューブ、作品以外の要素を消すことを追求したスタイル。現在世界の各地にある著名は事例を紹介していただき、ご自身がかわった水戸芸術館での取り組み、当時の磯崎新さんとのやりとりもお話しいただきました。

第3世代は特定の作品と空間を常設する



講演中の青木淳氏

美術館のスタイル。作品と一体となる空間の磯崎さんの奈義町の美術館やリビングルームのように日常生活の一端となるようなデンマークのルイジアナ美術館など、美術館の多様性が現れた世代。

第4世代は“PROTEAN Space”（プロテウス：変化能力を持つ）を持った美術館。ロンドンのテートモダンなど別用途の建物を転用して、独自の展示環境をつくっているものです。

歴史分析をもとに縦軸に個性的空間⇔中性的空間、横軸に先行性（使い方をあらかじめ決めた）⇔後発性（使い方を変化していく）をおいた4象限の図で自身の手掛けられた美術館を分類説明されました。そして以前から提示されている「はらっぱ」と「遊園地」（決まった用途が定められていない遊び場（PROTEAN Spaceに通じるあり方）と遊び方の決まっている場）の考えを重ねあわせて、ご自身「はらっぱ」のほうにかなり関



文化講演会 2026 リーフレット

心があると詳しくお話いただきました。青森県立美術館のコンペ提案の際も、従来のホワイト・キューブだけでなく、変化していく展示空間への思いを説明され選定されたとのことでした。

現在進行中の岡山の私設美術館の計画もお話しされ、用途転用や展示に使われた痕跡を活かした空間が独自の魅力をましていく新しい美術館づくりの経過をお聞きしました。

若手の建築家の講演とは異なり、これまでの長年の活動を通して考えてきた視点とこれからの試みを具体的に教えていただける講演で、設計に関わるものには大学の授業以上に勉強となるものでした。青木さんは現在京都市京セラ美術館の館長もされていて、設計と運営の双方の立場で美術館についての課題をお聞きすることもできて、年長の三重地域会メンバーは近年にたく知識欲を満足させ、自分の仕事にも活かせる価値ある講演だったとの感想でした。

かなり専門的な内容だったので、一般の方には理解しにくく、不評だったかと心配していましたが、回収したアンケートでは建築家の深い探求心、その分析の成果に興味感じて満足されたようでした。建築家の仕事が目新しい空間をつくる創造性だけでなく、事象を分析し発展させていくアカデミックな面があることを広める講演会になったと思います。



建築文化講演会場

服部 昌也(JIA三重)

八武組



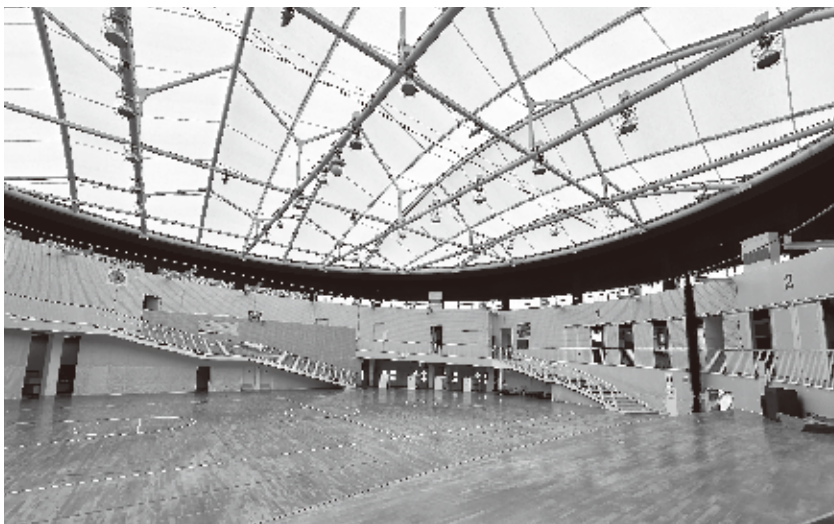
旧御杖小学校 見学会 ●参加者数:会員10名+その他3名 計13名

2025年度第1回目の会員研修会(見学会)が6月27日(金)に奈良県宇陀郡御杖村の旧御杖小学校にて開催されました。旧御杖小学校は市町村合併を機に平成10年5月に竣工され令和3年8月の小学校・中学校の校舎統合による閉校まで約23年間使用されていた建物です。建築家青木淳氏が設計された建物で外観は一つの大きな円形が基本であり、私としては小学校としてどのような間取りなのかと興味を持つ建物でした。

当日は、御杖村政策推進課の盛岡様に説明して頂きながら順次内部を見学させて頂きました。盛岡様は旧御杖小学校の一期生であり実際に通っていた頃の貴重なお話も聞かせて頂きながら見学会は進んでいきました。

まず最初に建物に入って驚いたのが建物の中心に体育館が有りその周りを囲うように廊下・各教室等が配置されている事でした。体育館に入った時には見学者からも驚きの声が上がリ体育館に響き渡りました。私も初めは体育館として感じていたので気付かなかったのですが、少し考えてみるとこの響きが建物全体に広がる事で一体化している各教室への影響はどの程度あるのかと疑問を感じました。音の対策については、壁に吸音材を追加するなど色々苦労されていたようです。天井部分はテント膜でドーム状の屋根になっており見学時の昼間では程よい明るさがあり照明が無くても問題無く使えていたのではないのでしょうか。

全体の配置は体育館を囲うように螺旋状に上がっていく廊下・オープンスペースがあり、その外側に教室が配置されています。当初は、各教室とオープンスペースの間に仕切りが無い状態で使用されていたようですが、空調や音の対策として間仕切りを追加しながら現在の状態になって来たとの事でした。建物全体が螺旋状にスロープで繋



体育館



外観図



オープンスペース



図書室

がっているデザインである為、各教室部分を水平にする事にはご苦労されたのではと感じ取れる部分が随所にありました。

見学を進めて行くと大きな円形の外観に付属するような小さな円形の建物がありそこには図書室とコンピューター室が配置されていました。図書室等は独立して地域住民に開放できるスペースとなっており、中央のコンピューター室を螺旋状に囲う図書室が配置され本体建物の通路と屋外からのアプローチの高低差を解消している間取りでした。

見学している時は、移動するのにスロープ部分ばかりを歩いているので少し平衡感覚が鈍ってくるのではと考えたのですが、小学校として使用していた当時のほとんどの時間は水平に保たれた教室等で授業を受けていた事を考えれば問題は無かったのかと今は考えています。

デザインと使い易さを上手く両立していく事をじっくり考えるきっかけとなる建物の見学会でした。

現在旧御杖小学校については、御杖村が管理をおこなっており利活用に向けて民間事業者の公募型プロポーザルを行っています。令和7年6月から公募は開始しており9月中旬頃に事業者を選定し、令和8年4月頃から利活用事業が開始していく予定です。

建物の他に屋外プールや運動場なども付属するこの自然豊かな空間を、今後どのように利活用されていくのを楽しみに待つ事とします。

相原 宏康(JIA三重)

Hiro設計室



活動報告

2024～25年度

2024年度

○通常総会

4月25日(木)

2024年度三重地域会通常総会

場所：東洋軒 本店（オンライン（ZOOM）併用）
出席者：正会員25名中対面10名、オンライン3名出席、委任状7名
合計20名（正会員の1/5以上により成立）

【議事】 第1号議案 2023年度事業報告 承認の件
第2号議案 2023年度事業収支決算報告 承認の件
第3号議案 その他 ※対象議案なし

【報告】 ① 2024年度役員等構成 報告の件
② 2024年度事業計画 報告の件
③ 2024年度事業収支予算 報告の件

（総会後）

2024年度通常総会 記念講演会

「川喜田半泥子の千歳山荘とその時代」

場所：東洋軒 本店（オンライン（ZOOM）併用）
出席者：会員16名（対面12名、オンライン4名）、法人協会員7名
その他地域会会員（オンライン5名）計28名
講師：菅原洋一氏（三重大学名誉教授）
※川喜田半泥子の調査研究の紹介、津市の町づくり活動などを
お話しいただいた。



○運営役員会・例会・事業活動

4月18日(木) 会計監査

場所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A（アスト津3階）
出席者：正会員6人

4月18日(木)

第1回役員会

場所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A（アスト津3階）
（オンライン（ZOOM）併用）

出席者：会員10名（役員6名※役員欠席者3名）、法人協会員3名

【議事】
・2024年度通常総会（総会資料）について
・2024年度事業計画等について

5月22日(水)

みえの気候風土適応住宅勉強会 第13回

場所：三重県教育文化会館 第4会議室
JIA 三重参加者：2名

5月31日(金)

第1回例会

場所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A（アスト津3階）
（オンライン（ZOOM）併用）

出席者：会員9名（対面6名、オンライン3名）、
法人協会員7名（対面5名、オンライン2名）

【法人協会員アビールタイム】

・ TOTO (株)「TOTO パブリック商品」

【議事】

・本年度の事業計画、予算について
・委員会報告
総務委員会：例会日程の変更
事業委員会：文化講演会／講師候補としてマル。アーキテクチャ
研修委員会：今年度事業計画について
広報委員会：今年度事業計画について
研究・社会活動委員会：教育支援／三重短大教育支援の予定表
環境まちづくり／会員研修会の日程

・法人協会員情報

第2回役員会

場所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A（アスト津3階）
（オンライン（ZOOM）併用）

出席者：会員7名（役員5名※役員欠席者4名）

【議事】

・本年度事業への取り組みについて
・委員会報告
総務委員会：今年度事業計画について
事業委員会：文化講演会／日時、会場、講師候補について
研修委員会：今年度事業計画について
広報委員会：今年度事業計画について
研究・社会活動委員会：今年度事業計画について

6月17日(月)

特定非営利活動法人 三重県木造住宅耐震促進協議会 総会・理事会

場所：三重県木造住宅耐震促進協議会 会議室
JIA 三重出席者：2名

7月19日(金)

第2回例会

場所：なごのキャンパス

出席者：会員9名、法人協会員2名

【会員研修会】

見学

・高架下オフィス／設計：マル。アーキテクチャ
・名古屋造形大／設計：山本理顕設計工房
・鳥森オフィス／設計：マル。アーキテクチャ
・なごのキャンパス

【議事】

・委員会報告
各委員会の進捗状況
・法人協会員情報

7月31日(金)

第3回役員会

場所：オンライン

出席者：会員10名（役員8名※役員欠席者1名）

【議事】

・委員会報告

総務委員会：日程変更について／改正建築基準法のサポートセンターについて
事業委員会：文化講演会／進捗状況
研修委員会：研修会、森羅万象の予定について
広報委員会：アーキテクトみえの配布先について
研究・社会活動委員会：進捗状況

8月2日(金)

三重県建築物震後対策推進協議会令和6年度総会

場所：鳥居支所 2階大会議室

JIA 三重出席者：1名

8月30日(金)

第3回例会

場所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A（アスト津3階）
（オンライン（ZOOM）併用）

出席者：会員14名（対面6名、オンライン8名）、
法人協会員5名（対面4名、オンライン1名）

【議事】

・委員会報告

総務委員会：日程について、改正建築基準法のサポートセンターについて
事業委員会：文化講演会／進捗状況
建築ウォッチング／見学先の協議
研修委員会：次回会員研修会、森羅万象について
広報委員会：アーキテクトの執筆について
研究・社会活動委員会：三重建築学生合同課題発表会、
三重短期大学教育支援について
・法人協会員情報

第4回役員会

場所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A（アスト津3階）
（オンライン（ZOOM）併用）

出席者：会員10名（役員8名※役員欠席者1名）

【議事】

・委員会報告

総務委員会：改正建築基準法のサポートセンターについて
事業委員会：進捗状況
研修委員会：森羅万象の会場設定について
広報委員会：進捗状況
研究・社会活動委員会／進捗状況

8月30日(金)

法人協会員主催 ボウリング大会

場所：津グラウンドボウル

参加者：10名

10月4日(金)

第4回例会

場所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A（アスト津3階）
（オンライン（ZOOM）併用）

出席者：会員14名（対面8名、オンライン6名）、
法人協会員6名（対面4名、オンライン2名）

【法人協会員アビールタイム】

・三見金属工業(株)「スマートクリップ、フラットジョイント」

【議事】

・委員会報告

総務委員会：進捗状況
事業委員会：文化講演会／リーフレットの検討
建築ウォッチング／案内書、予算の検討
研修委員会：森羅万象について
広報委員会：アーキテクトの執筆依頼
研究・社会活動委員会：
教育支援／三重建築学生合同課題発表会 2024 について
教育支援／三重短期大学教育支援の日程について
・法人協会員情報

【会員研修会2】

座学 法人協会員(株) LIXIL

「環境性能の高度化による外装の最新傾向」

「省エネ基準対応と今後の住宅の流れについて」他

※ 2050 カーボンニュートラルに対する外装建材の紹介と建築物省エネ法
の改正に対する取り組みが紹介された。

第5回役員会

場所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A（アスト津3階）
（オンライン（ZOOM）併用）

出席者：会員10名（役員8名※役員欠席者1名）

【議事】

- ・委員会報告
- 総務委員会：改正建築基準法のサポートセンターは地域会では行わないリフレッシュセミナー参加者の補助について
- 事業委員会：進捗状況
- 研修委員会：進捗状況
- 広報委員会：進捗状況
- 研究・社会活動委員会：進捗状況

11月9日(土)

建築ウォッチング「名古屋、文化のみちの旅」
 見学先：名古屋市政資料館、旧豊田佐助邸、文化のみち二葉館、中産連ビル
 参加者：正会員＋賛助会員 計8名
 ※名古屋城から徳川園に至る保存地区は「文化のみち」と呼ばれ、そこに残る名建築を見学した。

11月11日(月)

特定非営利活動法人 三重県木造住宅耐震促進協議会 理事会
 場 所：三重県木造住宅耐震促進協議会 会議室
 JIA 三重出席者：2名

11月28～30日(木～土)

JIA 全国大会「大会テーマ：建築の未来」@
 場 所：別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ）
 JIA 三重参加者：5名

12月6日(金)

研究・社会活動委員会 三重短期大学教育支援 第1回支援
 場 所：三重短期大学生活科学科居住環境コース
 1年生「戸建て住宅」の設計課題 エスキスの助言・チェック等
 JIA 三重会員5名で参加

12月9日(月)

みえの気候風土適応住宅勉強会 第14回勉強会
 場 所：旧田中家住宅見学(龟山市)～八太正太夫住宅見学(津市)・勉強会
 JIA 三重参加者：1名

12月20日(金)

第5回例会
 場 所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
 (オンライン(ZOOM)併用)
 出席者：会員12名(対面8名、オンライン4名)、
 法人協会員6名(対面2名)

【法人協会員アビールタイム】

・(株)エヌエスピー「商品紹介」

【議事】

- ・委員会報告
- 総務委員会：進捗状況
- 事業委員会：文化講演会／タイムスケジュール、会場設営確認
- 研修委員会：例会後に会員研修会を開催
- 広報委員会：アーキテクトの執筆について
- 研究・社会活動委員会：
 教育支援／三重建築学生合同課題発表会2024のスケジュール
- ・来年度事業予算について
- ・法人協会員情報

【会員研修会3】

森羅万象匠塾「セーザイゲーム」

講 師：熊野林星会
 ※林業の現状および製材の行程を学ぶ。



第6回役員会

場 所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
 (オンライン(ZOOM)併用)
 出席者：会員11名(役員7名※役員欠席者2名)

【議事】

- ・委員会報告
- 総務委員会：次年度予算について
- 事業委員会：進捗状況
- 研修委員会：進捗状況
- 広報委員会：進捗状況
- 研究・社会活動委員会：進捗状況

12月21日(土)

三重建築学生合同課題発表会 2024
 場 所：三重大学レーモンドホール
 発表者：三重大学2年生(3名)、三重短期大学2年生(3名)、
 近畿大学工業高等専門学校5年生(2名)
 ゲスト：山口陽登氏(YAP一級建築士事務所)
 参加者：JIA 会員9名、学生・一般23名 計32名
 ※三重で建築を学ぶ学生が授業で行った課題を発表し、建築家による講評を受ける事で建築に取り組む姿勢を学んだ。



1月17日(金)

研究・社会活動委員会 三重短期大学教育支援 第2回支援
 場 所：三重短期大学生活科学科居住環境コース
 1年生「戸建て住宅」の設計課題 完成作品の講評等
 JIA 三重会員5名で参加

1月18日(土)

JIA 三重 建築文化講演会 2025
 場 所：アスト津アストプラザ4階
 アストホール
 テーマ：「重なり合う建築」
 講 師：高野洋平氏＋森田祥子氏
 (マル。アーキテクチャ)
 来場者：JIA 会員17名、
 一般70名、合計87名



2月14日(金)

第6回例会
 場 所：オンライン(ZOOM)
 出席者：会員10名、法人協会員5名
 【法人協会員アビールタイム】
 ・オスモ&エーデル(株)

【議事】

- ・委員会報告
- 総務委員会：会員研修会の日程変更
- 事業委員会：文化講演会／事業報告
- 建築ウォッチング：事業報告
- 研修委員会：進捗状況
- 広報委員会：アーキテクト執筆について
- 研究・社会活動委員会
 教育支援／三重短期大学教育支援の事業報告
 教育支援／三重建築学生合同課題発表会2024の事業報告
 環境まちづくり／第2回会員研修会(見学会)の日時変更及びスケジュール、一般参加について

第7回役員会

場 所：オンライン(ZOOM)
 出席者：会員8名(役員5名※役員欠席者4名)

【議事】

- ・委員会報告
- 総務委員会：退会届けの承認、法人協会員へ入会呼びかけ
- 事業委員会：進捗状況
- 研修委員会：進捗状況
- 広報委員会：進捗状況
- 研究・社会活動委員会：進捗状況
- ・来年度事業計画、予算について

3月7日(金)

第7回例会
 場 所：アスト津4階 会議室4 (オンライン(ZOOM)併用)
 出席者：会員12名(対面5名、オンライン7名)
 法人協会員3名(対面1名、オンライン2名)

【議事】

- ・委員会報告
- 総務委員会：監査、総会日程について、次年度事業計画について
- 事業委員会：進捗状況
- 研修委員会：進捗状況
- 広報委員会：リフレッシュセミナー高瀬氏参加報告
- 研究・社会活動委員会：
 環境まちづくり／第2回会員研修会(見学会)について
- ・法人協会員情報

第8回役員会

場 所：アスト津4階 会議室4 (オンライン(ZOOM)併用)
 出席者：会員10名(役員8名※役員欠席者1名)

【議事】

- ・委員会報告
- 総務委員会：三重県との防災協定の現状について
- 事業委員会：文化講演会／次回建築家の候補について
- 研修委員会：進捗状況
- 広報委員会：進捗状況
- 研究・社会活動委員会：進捗状況

3月17日(月)

特定非営利活動法人 三重県木造住宅耐震促進協議会 理事会
 場 所：三重県木造住宅耐震促進協議会 会議室
 JIA 三重出席者：2名

3月18日(火)

会員研修会(見学会)
 場 所：旧上野市庁舎(旧伊賀市役所)
 マル。アーキテクチャによる解説
 参加者：会員15名、一般17名
 ※改修中の坂倉準三氏設計の「旧上野市庁舎」の見学をおこなった。



□三重地域会 会員数(2025年3月末)
 正会員25名、準会員(ジュニア会員)4名、準会員(学生会員)1名
 個人協会員1名、法人協会員15社

2025年度

○通常総会

4月24日(木) 2025年度三重地域会通常総会
場 所: 東洋軒 本店 (オンライン (ZOOM) 併用)
出席者: 正会員25名中対面13名、オンライン2名出席、委任状4名
合計19名 (正会員の1/5以上により成立)
【議 事】 第1号議案 2024年度事業報告 承認の件
第2号議案 2024年度事業収支決算報告 承認の件
第3号議案その他 ※対象議案なし
【報 告】 ① 2025年度役員等構成 報告の件
② 2025年度事業計画 報告の件
③ 2025年度事業収支予算 報告の件

(総会后)

2025年度通常総会 記念講演会

「縮減社会における空間デザイン (まちづくり)」
場 所: 東洋軒 本店 (オンライン (ZOOM) 併用)
出席者: 会員17名 (対面15名、オンライン2名)、法人協会員6名
東海支部長、幹事長 (2名) 計25名
講 師: 三宅諭氏 (三重大学工学部総合工学科建築学コース 教授)

○運営役員会・例会・事業活動

4月10日(金) 会計監査
場 所: アスト津4階 会議室4
出席者: 正会員5人、法人協会員1名

4月10日(金) 第1回役員会
場 所: アスト津4階 会議室4 (オンライン (ZOOM) 併用)
出席者: 会員10名 (役員9名※役員欠席者2名)、法人協会員6名
【議 事】
・ 2025年度通常総会 (総会資料) について
・ 2025年度事業計画について

5月16日(金) 第1回例会
場 所: みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
(オンライン (ZOOM) 併用)
出席者: 会員12名 (対面5名、オンライン7名)、
法人協会員6名 (対面3名、オンライン3名)
【法人協会員アビールタイム】
・ チャネルオリジナル (株) 「屋久島地杉プロジェクト」
【議 事】
・ 事業計画、予算について
・ 委員会報告
総務委員会: 総会時の会計資料の取扱について
事業委員会: 文化講演会/講師候補者について
研修委員会: アーキテクトみえ36.37号の構成について
広報委員会: 今年度事業計画について
研究・社会活動委員会: 会員研修会の日程について
・ 法人協会情報: 法人アビールタイム日程について

第2回役員会

場 所: みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
(オンライン (ZOOM) 併用)
出席者: 会員8名 (役員6名※役員欠席者5名)
【議 事】
・ 本年度事業への取り組みについて
・ 委員会報告
総務委員会: 総会時の会計報告について
事業委員会: 文化講演会/例会報告による
研修委員会: 例会報告による
広報委員会: 例会報告による
研究・社会活動委員会: 例会報告による

6月9日(月)
特定非営利活動法人 三重県木造住宅耐震促進協議会 総会・理事会
場 所: 三重県木造住宅耐震促進協議会 会議室
JIA 三重出席者: 2名

6月27日(金)
第2回例会 (会員研修会)
場 所: 旧御杖村小学校 奈良県宇陀郡御杖村菅野 47
出席者: 会員10名、会員外3名
【会員研修会】
旧御杖村小学校 (青木淳氏) を見学
※本年度建築文化講演会講師の作品を事前に見学することにより、講演会
理解の一助とする。

7月11日(金)
第3回役員会
場 所: オンライン
出席者: 会員10名 (役員8名※役員欠席者3名)
【議 事】
・ 委員会報告
総務委員会: 支部災害対策 WG の設置について
事業委員会: 文化講演会/進捗状況
建築ウォッチング/見学先の協議
研修委員会: 進捗状況
広報委員会: アーキテクトみえについて
研究・社会活動委員会: 会員研修会の意見交換

8月1日(金)
三重県建築物震後対策推進協議会令和7年度総会
場 所: 鳥居支所 2階大会議室
JIA 三重出席者: 1名

8月22日(金)
第3回例会
場 所: みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
(オンライン (ZOOM) 併用)

出席者: 会員12名 (対面8名、オンライン4名)、
法人協会員4名 (対面2名、オンライン2名)
【法人協会員アビールタイム】
・ (株) LIXIL 「レジリエンストイレ」
【議 事】
・ 委員会報告
総務委員会
事業委員会: 文化講演会/進捗状況
建築ウォッチング/見学先の協議
研修委員会: 次回研修会について
報委員会: アーキテクトみえの執筆について
研究・社会活動委員会: 進捗状況
・ 法人協会情報
・ 支部より六浦基晴氏が例会参加。東海支部設計競技について

第4回役員会

場 所: みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
(オンライン (ZOOM) 併用)
出席者: 会員11名 (役員9名※役員欠席者2名)
【議 事】
・ 委員会報告
総務委員会: 例会日程変更について
事業委員会: 例会報告による
研修委員会: 例会報告による
広報委員会: 例会報告による
研究・社会活動委員会: 例会報告による

10月17日(金)
法人協会主催 ボウリング大会
場 所: 津グランドボウル
参加者: 13名

10月3日(金)
第4回例会
場 所: みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
(オンライン (ZOOM) 併用)
出席者: 会員11名 (対面5名、オンライン6名)、
法人協会員4名 (対面4名)
【法人協会員アビールタイム】
・ TOTO (株) 「住宅とパブリック ウォッシュレットの違い」
【議 事】
・ 委員会報告
総務委員会: 例会日時の変更について
事業委員会: 文化講演会/進捗状況
建築ウォッチング: 案内書、予算の検討
研修委員会: 森羅万象について
広報委員会: アーキテクトの執筆依頼
研究・社会活動委員会
教育支援: 三重建築学生合同課題発表会 2025 について
教育支援: 三重短期大学教育支援の日程について
・ 三重の気候風土適応住宅勉強会について
・ 法人協会情報
【会員研修会2】
座学 (株) ユニソン温熱環境デザインエアロジック
「24時間換気設備・全館空調」に関する知識、施工上の課題

第5回役員会

場 所: みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
(オンライン (ZOOM) 併用)
出席者: 会員8名 (役員6名※役員欠席者5名)
【議 事】
・ 委員会報告
総務委員会: 例会報告による
事業委員会: 建築ウォッチングの協議
研修委員会: 例会報告による
広報委員会: 例会報告による
研究・社会活動委員会: 例会報告による

11月15日(土)
建築ウォッチング「京都名作建築の旅」
見学先: 京セラ美術館、
ロームシアター京都、東華茶館、
MOMOTARO JEANS KYOTO、
きおん石、長楽館、祇園閣
参加者: 会員+一般計6名
※建築文化講演会講師青木淳氏設計の
京セラ美術館を中心に周辺の京都の
建築を見学した。



11月7~8日(金~土)
JIA 建築家大会「大会テーマ: せんのちから」@
場 所: 千葉県文化会館
JIA 三重参加者: 3名

11月14日(金)
第15回みえの気候風土適応住宅ガイドライン策定検討委員会
場 所: 三重県建設産業会館 4階北会議室
JIA 三重参加者: 1名

11月17日(月)
特定非営利活動法人 三重県木造住宅耐震促進協議会 理事会
場 所: 三重県木造住宅耐震促進協議会 会議室
JIA 三重出席者: 1名

12月5日(金)
研究・社会活動委員会 三重短期大学教育支援
第1回支援
場 所: 三重短期大学生活科学科居住環境コース
1年生の「戸建て住宅」設計課題 エスキスの助言・チェック等
JIA 三重会員4名で参加



12月5日(金)
支部財政意見交換会 WEB 説明会
 場 所：オンライン
 支部財政に関する説明及び意見交換
 JIA 三重会員 4名参加

12月10日(水)
臨時役員会
 場 所：オンライン
 出席者：会員 10名 (役員 7名※役員欠席者 4名)
 【議 事】
 ・支部財政について
 ・みえの気候風土適応住宅勉強会について

12月13日(土)
三重建築学生合同課題発表会 2025
 場 所：三重大学レーモンドホール
 発表者：三重大学2年生(3名)、三重短期大学2年生(4名)、
 近畿大学工業高等専門学校5年生(2名)
 ゲスト：武保学氏(きりん)
 参加者：JIA 会員 8名、学生・一般 27名 計 35名
 ※三重で建築を学ぶ学生が授業で行った課題を発表し、建築家による講評
 を受ける事で建築に取り組む姿勢を学んだ。



12月19日(金)
第5回例会
 場 所：オンライン
 出席者：会員 7名、法人協会員 3名
 【法人協会員アビールタイム】
 ・チャネルオリジナル(株)「WILL WOOD クロス/シートの紹介」
 【議 事】
 ・委員会報告
 総務委員会：進捗状況
 事業委員会：文化講演会/タイムスケジュール、会場設営確認
 研修委員会：会員研修会について
 広報委員会：アーキテクトの執筆について
 研究・社会活動委員会：教育支援/三重短期大学教育支援の日程について
 ・来年度事業予算について
 ・支部財政について
 ・みえの気候風土適応住宅勉強会について
 ・法人協会員情報

第6回役員会(※定数未達により不成立)
 場 所：オンライン
 出席者：会員 7名 (役員 5名※役員欠席者 6名)
 【議 事】
 ・委員会報告
 総務委員会：例会報告による
 事業委員会：例会報告による
 研修委員会：会員研修会について
 広報委員会：例会報告による
 研究・社会活動委員会：例会報告による

1月6日(火)
臨時役員会
 場 所：オンライン
 出席者：会員 9名 (役員 9名※役員欠席者 2名)
 【議 事】
 ・次年度取支予算について
 ・支部財政について
 ・会員研修会について

1月7日(水)
第16回みえの気候風土適応住宅ガイドライン策定検討委員会
 場 所：三重県建設産業会館3階 三重県建築士会事務局会議スペース
 JIA 三重参加者：2名

1月16日(金)
研究・社会活動委員会 三重短期大学教育支援 第2回支援
 場 所：三重短期大学生活科学科居住環境コース
 1年生の「戸建て住宅」設計課題 完成作品の講評等
 JIA 三重会員 3名で参加

1月19日(月)
建築物省エネ法気候風土適応住宅の解説 説明会
 場 所：サンワーク津2階大会議室
 JIA 三重参加者：2名

1月24日(土)
JIA 三重 建築文化講演会 2026
 場 所：三重県立美術館 講堂
 テーマ：「理想の美術館」
 講 師：青木 淳氏
 来場者：JIA 会員 17名、一般 95名、合計 112名



2月2日(月)
JIA 東海支部大会 2026 静岡「史考する建築」@
 場 所：垂山、伊豆長岡温泉
 JIA 三重参加者：4名

2月6日(金)
第6回例会
 場 所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
 (オンライン (ZOOM) 併用)
 出席者：会員 13名、法人協会員 4名
 【法人協会員アビールタイム】
 ・オスモ&エーデル(株)「オスモカラーの紹介」
 【議 事】
 ・委員会報告
 総務委員会：新入会員入会承認
 事業委員会：文化講演会/事業報告
 建築ウォッチング/事業報告
 研修委員会：会員研修会3について
 広報委員会：アーキテクト執筆について
 研究・社会活動委員会：
 教育支援/三重短期大学教育支援の事業報告
 教育支援/三重建築学生合同課題発表会 2025の事業報告
 ・みえの気候風土適応住宅勉強会について
 ・法人協会員情報
 【会員研修会3】
 森羅万象匠塾
 「地域・創生 開かれた活動をめざして」
 講 師：森岡茂夫氏
 ※ JIA 活動を実のある物にするため、講師の事例をとおして、さまざま
 な手法等の紹介をいただいた。



第7回役員会
 場 所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
 (オンライン (ZOOM) 併用)
 出席者：会員 12名 (役員 8名※役員欠席者 1名)
 【議 事】
 ・委員会報告
 総務委員会：会長選挙の投票依頼
 事業委員会：文化講演会参加者の連絡先
 研修委員会：例会報告による
 広報委員会：例会報告による
 研究・社会活動委員会：3月例会見学会先について

2月19日(木)
第17回みえの気候風土適応住宅ガイドライン策定検討委員会
 場 所：オンライン (ZOOM)
 JIA 三重参加者：2名

3月9日(月)
特定非営利活動法人 三重県木造住宅耐震促進協議会 理事会
 場 所：三重県木造住宅耐震促進協議会 会議室
 JIA 三重出席者：2名

3月13日(金)
第7回例会
 場 所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
 (オンライン (ZOOM) 併用)
 出席者：会員 12名、法人協会員 3名
 【議 事】
 ・委員会報告
 総務委員会：新会員の件
 事業委員会
 研修委員会：事業報告
 広報委員会：アーキテクトみえ発刊予定
 研究・社会活動委員会：会員研修会事業報告
 ・法人協会員情報：新年度価格改定、新年度新会長について

第8回役員会
 場 所：みえ県民交流センター ミーティングルーム A (アスト津3階)
 (オンライン (ZOOM) 併用)
 出席者：会員 11名 (役員 8名※役員欠席者 1名)
 【議 事】
 ・委員会報告
 総務委員会：監査、総会日程。地域会費未納者について
 事業委員会：例会報告による
 研修委員会：例会報告による
 広報委員会：例会報告による
 研究・社会活動委員会：例会報告による

□三重地域会 会員数 (2026年3月末)
 正会員 25名、準会員(ジュニア会員) 4名
 個人協会員 1名、法人協会員 14社

日本建築家協会 (JIA) 三重会員名簿

氏名	所属先	TEL	FAX	住所
----	-----	-----	-----	----

幹事

出口 基樹	日新設計㈱	059-227-7421	059-225-7854	514-0038 津市西古河町 20 番 18 号
久安 典之	久安典之建築研究所	059-359-6678	059-359-6679	510-0086 四日市市諏訪栄町 22-3
西出 章	㈱森永建築設計事務所	0595-21-1125	0595-23-9945	518-0873 伊賀市上野丸之内 62-2
山本 覚康	山本一級建築士事務所	059-225-0757	059-224-1779	514-0815 津市藤方 1457-4

北勢地区

奥野 美樹	㈱奥野建築事務所	052-963-0771	052-963-0772	511-0009 桑名市桑名 663-17
川崎 貴覚	川崎建築設計室	059-377-2134	059-377-2092	510-8101 三重郡朝日町繩生 663
阪 竹男	㈱阪竹男建築研究所	059-322-5096	059-322-6097	510-0961 四日市市波木町 394-1
中村 久	㈱中村建築設計事務所	0594-76-2102	0594-76-8717	511-0257 員弁郡東員町北大社 1325-9

伊賀地区

池澤 邦仁	池澤アソシエイツ	0595-36-2429	0595-36-2429	518-0813 伊賀市蓮池 410
滝井 利彰	一級建築士事務所タック設計室	0595-23-5092	0595-23-0322	518-0858 伊賀市上野紺屋町 3171
中森 博文	まちづくり研究所	0595-65-3401	0595-65-0298	518-0603 名張市西原町 2685-1
松本 正博	㈱上野建築研究所	0595-23-6272	0595-23-6273	518-0801 伊賀市平野見能 330-22
森本 昭博	㈱森本建築事務所	0595-65-2638	0595-66-2639	518-0623 名張市桔梗が丘 3 番町 2 街区 68-4
森本 雅史	㈱森本建築事務所	0595-65-2638	0595-66-2639	518-0623 名張市桔梗が丘 3 番町 2 街区 68-4

中勢地区

相原 宏康	Hiro 設計室	0595-96-8175	0595-96-8175	519-0118 亀山市北町 8-28-6
木下 誠一	三重短期大学生活科学科 教授	059-232-4430	059-232-9647	514-0112 津市一身田中野 157
富岡 義人	三重大学工学部教授	059-231-9662	059-231-9452	514-8507 津市栗真町屋町 1577
平野 信義	アーツ設計	059-227-1405	059-227-1407	514-0007 津市大谷町 194-8-1B
村山 邦夫	㈱アーキ設計	059-225-7020	059-225-5104	514-0041 津市八町 3-10-10
山下 和哉	㈱建築デザイン研究所	059-253-6200	059-253-6201	514-0039 津市押加部町 17 番 3 号

南勢地区

伊藤 達也	一級建築士事務所設計工房 NEXT	0598-30-5546	0598-30-5546	515-2324 松阪市嬉野町 1487-15 シティハイムフォーレスト 101 号
高瀬 元秀	タカセモトヒデ建築設計	0596-64-8635	0596-64-8635	519-0501 伊勢市小俣町明野 1708
高橋 徹	㈱高橋徹都市建築設計工房	0596-27-0455	0596-23-6645	516-0009 伊勢市河崎 2 丁目 27-34
谷川 精一	㈱アスカ総合設計	0598-58-3260	0598-58-3264	515-0845 松阪市伊勢寺町 590-4
芳賀 信次	H A G A 総合設計	0598-21-5511	0598-21-5512	515-0064 松阪市五反田町 3-1130-8

準会員 (ジュニア会員)

伊藤 大智	日新設計㈱	059-227-7421	059-225-7854	514-0038 津市西古河町 20 番 18 号
豊田 直樹	nao 建築設計事務所	0595-98-4500	0595-82-9702	519-0137 亀山市阿野田町 1221-1
米田 雅樹	一級建築士事務所 ヨネダ設計舎	0596-67-7327	0596-67-6494	515-0311 多気郡明和町平尾 306-3
西口 有紀	arbre 建築設計室			515-0063 松阪市大黒田町 218-7

個人協力会員

服部 昌也	株式会社 八武組	059-331-3030	059-331-3856	510-0815 四日市市野田 1 丁目 2-44
-------	----------	--------------	--------------	---------------------------

日本建築家協会 (JIA) 三重法人協力会員名簿

法人協力会員会社名	TEL	FAX	住所
株式会社 L I X I L	059-238-5017	059-238-5033	514-0816 三重県津市高茶屋小森上野町 1109-1
三見金属工業株式会社	059-245-6456	059-245-6460	510-0308 三重県津市河芸町中瀬 232-1
株式会社 タフ	052-408-2258	052-401-1778	452-0962 愛知県清須市春日江先 18
オスモ&エーデル株式会社	052-253-9221	052-253-9226	460-0001 愛知県名古屋市中区東区泉 1-14-23 ホワイトメイツ 201
有限会社伊勢地撰	0596-38-1688	0596-38-1588	515-0504 三重県伊勢市磯町 1252
TOTO 株式会社	052-308-4705	052-308-5646	514-1113 三重県津市久居野村町 420-10
株式会社 アイチ金属	052-909-5600	052-909-5610	462-0011 愛知県名古屋市中区五反田町 77 番地
株式会社 東海ベース	052-485-6205	052-485-6206	454-0983 愛知県名古屋市中川区東春田 1 丁目 29 番
総合資格学院四日市校	059-359-0711	059-359-0712	510-0075 三重県四日市市安島 1-2-24TK ビル 4F
株式会社 ミヤマラ	059-245-1515	059-245-1735	510-0303 三重県津市河芸町東千里 1019-2
YKKAP 株式会社 中部支社 名古屋ビル建材支店	059-224-1521	059-226-0953	514-0009 三重県津市羽所町 700 アスト津 10F
㈱建築資料研究社 三重支店 日建学院津校	059-291-6030	059-291-6033	514-0034 三重県津市南丸之内 8-61
チャンネルオリジナル株式会社 名古屋営業所	052-990-6092	052-990-6182	461-0005 愛知県名古屋市中区東区東桜 1 丁目 10-9 栄プラザビル 7 階
株式会社 エヌ・エス・ピー 住宅事業部 中部営業所	0568-73-3003	0568-73-8177	485-0082 愛知県小牧市大字村中宇池田 1074-1



表紙の写真は、松阪駅から南西に続く商店街です。写真のように車道を挟んで広い歩道に面して個人のお店が連なる商店街もあれば、広い歩行者専用道路の両側に面してお店が連なる商店街もあり、大半はこのどちらかが採用されています。日本の歴史を考えても街道沿いの宿場町がそれにあたるのではないのでしょうか。私の地元にも車道を挟んだ商店街があります。私が子供の頃は、車道に面して店舗が建ち並んでいましたが1980年代中頃に再開発によって車道を挟んだアーケード付き歩道に面した商店街に生まれ変わっています。しかしながら現在では、半数に近い店舗のシャッターは開く事はない状態が続いています。

今も昔も、商店街の繁栄には人々に歩いてもらう事が一番大事なのかもしれません。
(相原宏康)

編集後記

2年に一度発行しているアーキテクトみえの編集を行うに当たり特集記事については色々悩みました。これまで三重の祭りや伝統品、まちなみや建物などに焦点を当てて特集してきた中で特集を何にするのか考えた結果、今回は「三重の商店街」としました。

商店街については、三重県だけではなく全国的に縮小している文化の一つであり今後どのように変わっていくのか注目していく一つであると思い今回特集記事としてまとめました。以前は商業の中心的空間として個人商店が建ち並ぶ商店街が人々の生活に直結してました。それが近年では大型商業施設が郊外に出来て人々の流れは大きく変わってきました。広く考えれば今の大型商業施設も専門店が並ぶ商店街的な空間が主流になってきているように感じますので、基本的には変わっていないのかもしれませんが。そんな中一つ大きな変化が自動車の普及ではないかと思えます。徒歩や自転車、公共交通機関が主流だった頃と自動車移動が当たり前になった地域では駐車スペースが必須となり、その対応に少し遅れを取った事も一つの要因かもしれません。

今回の記事では、古くから残る宿場町的な商店街から地域活性の為に近年造られた商店街など色々な目線で注目して頂いています。これからの商店街に何が必要で何が足りないのかを考えながら先を見据えた商店街を残していける事を願います。

相原宏康（広報委員長）

アーキテクトみえ 36・37号

発行日 2026年3月31日
発行責任者 出口 基樹
編集責任者 相原 宏康
編集 三重地域会広報委員会
発行者 公益社団法人日本建築家協会 東海支部三重地域会
〒518-0873 伊賀市上野丸之内62-2
TEL: 0595-21-1125

WHO?

「建築家って、何をする人?」と
あらためて聞かれると、その職業名はしていても実際にどんな仕事をするのかは、意外にご存知ないもの。
「設計図を描く人」「大工さんに指示する人」など
部分的なイメージを持っていても本当の姿はなかなか伝わっていないようです。
「えっ、こんなことまでしてくれるの?」と驚かれるほど、さまざまなことをする建築家について
新しい目を向けてください。

建築家は
建物の
お医者さんです



建築家は
建物の
財務マンです



建築家は
建物の
法律コンサルタントです



建築家は
建物の
演出家です



建築家は
建物づくりの
キャプテンです



建築家は
環境価値の
創造者です



建築家は
一生の
パートナーです



JIAは
そんな建築家の
組織です



6月15日は建築の日



公益社団法人日本建築家協会東海支部
三重地域会

<http://www.jia-mie.com>

